

# 平成 29 年度 自己点検・自己評価公表シート

認定こども園エクレス

## 1. 本園の教育・保育目標

学園の建学の精神（わが学園は教育をとおして「努力心」「誠実心」「独立心」を養い、平和社会の建設に貢献する人間を育成することを使命とする）に基づき、「やさしく、たくましく、うつくしく、表現力豊かな子どもを育てる」ことを教育・保育方針とする。

そのために次の6項目を教育・保育目標とする。

①楽しい教育

②義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとしての子どもに対する教育及び保育を一体的に行い、これらの子どもの健やかな成長が図られるよう適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、保護者に対する子育ての支援を行う。

③やさしく、たくましく、うつくしく、表現力豊かな子どもを育てる。

④「こころ」「ことば」「あそび」「表現」の“4つのつばさ”を保護者と共に育てる。

⑤個を大切にしながら、自立と自律の、発達を促す教育と保育を進める。

⑥遊びと学びを通して基本的な生活習慣を身につけ、生きる力を育む。

## 2. 本年度の重点取り組み目標・計画

【0～2歳児】

- ・保育士との触れ合いや応答的な関わりの中で、信頼関係を築く。
- ・情緒の安定を計り、生活に必要な基本的習慣が身に付くようにする。

【3～6歳児】

- ・異年齢の関わりが持てるよう、保育内容を吟味し指導計画を立て、年齢に応じた援助を行う。
- ・異年齢保育を行う中で、次年度に向けての改善点を洗い出し、子どもの成長にとってより良い環境を考案していく。

## 3. 学年別目標・計画

0歳児	愛情豊かな保育士との触れ合いや応答的な関わりの中で信頼関係の基礎を育てる。
1歳児	子どもが健康で安全に生活できる環境を作り、保育士との信頼関係を深め情緒の安定を図る。
2歳児	保育士と安定した関わりの中で、食事、排泄、睡眠、着脱等の基本的な生活習慣を自分でしようとする意欲を育て、身に付けられるようにする。
3歳児	友達との関わりを持ち、色々な経験を通じて園生活を楽しむ。
4歳児	園生活に慣れ親しみ、基本的な生活習慣を身に付け、集団の中の一人として自立する。
5歳児	学級の中で一人一人が自己発揮し、自分たちで自主的に園生活を進めていくようにする。

#### 4. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
<b>1. 教育・保育目標の理解と周知</b> 教育・保育理念、教育・保育方針、教育目標について、教職員間の共通理解ができていますか	学園の理念、園の教育・保育理念、目標については、日ごろから周知することができており、専任教職員については共通理解ができていますが、非常勤職員については、共通理解の機会を持てる取り組みが必要。
<b>2. 教育・保育内容</b> 教育・保育要領の理解、教育・保育指針を踏まえた指導計画の作成、保育の記録と次の指導計画への反映ができていますか	指導計画は、教育・保育指針を踏まえ、年齢に応じた園児の理解と発達状況に対応して作成ができています。日々の保育の記録を取り、園児のサポート状況等教員間で情報共有するとともに、改善への取り組みもできています。
<b>3. 教育・保育環境</b> 園児の自発的な活動、ねらいを達成できる用具・材料の準備、教材・教具の適切な活用、園児の実際の行動に合わせた環境への配慮ができていますか	教材・教具を適切に活用することができています。園児の自発的な活動を引き出し、ねらいを達成できる用具・材料を適切に準備し配置する点においては、教職員の達成度に若干のばらつきがあるため、今後、勉強会などの実施をとおしてレベルアップを図る必要がある。
<b>4. 行事</b> ねらいを理解したうえで実施しているか 行事の種類や回数はてきせつか PDCA 体制をとっているか	保護者向けアンケートの実施により、保護者の要望や意見を取り入れたうえで、PDCAを回しながら実施しており、年々教育の質の向上が見られる。保護者との協力体制も確立しており、園児の自主的・実践的な取り組みになっている。 ただし、平成29年度より縦割り（異年齢保育）を導入したため、行事の実施方法については改善が必要。
<b>5. 教職員の役割・資質向上</b> 専門家としての能力・良識・義務の適性、園児との共感、個の受け止め、能力の向上努力、他の教職員との連携ができていますか	専門的な知識・良識等については、学園内外の研修参加もあることから、ほぼ目標値を達成できているが、人により差があるため、段階別研修等を導入した。園児との共感、満足感や心の安定の提供、善悪の判断、思いやりの気持ちなどの育みは、適切な言葉・行動とも、積極的な働きかけができています。また、一人ひとりを大切に受け止め、個々の特性に合わせた指導もできています。
<b>6. 特別支援教育</b> 当該園児についての情報の共有、家庭・医療・福祉等の関係機関との連携、特別支援についての理解を深めるための自己研鑽等ができていますか	当該園児についての情報の共有については、共有のシステム化がなされており、共通理解のもと支援体制を整えることができています。また、家庭・医療・福祉との連携も密に図れている。職員の知識向上という点においては、学園内外での研修参加の機会も設けているが、自己研鑽という点では、不足と感じている教職員もいる現状であることから、具体的な事例研究等教職員の研修の機会を設けたい。
<b>7. 保健・安全指導</b> 避難訓練、交通安全指導の実施、健康・安全な生活の家庭への啓発、家庭・地域・関係機関との連携、施設・設備の安全点検の計画的な実施、アレルギー児への適切な対応ができていますか	避難訓練、交通安全教室等を計画に基づいて実施している。 園舎・園庭の施設・設備の安全点検は、計画性を持って実施しているが、保育室内の細かいチェック等さらなるステップアップを目指す。健康・安全な生活に必要な習慣等の取り組みについては、園内掲示物やメール発信等を活用して実施している。アレルギーへの理解は研修の実施・参加を積極的に行ったほか、アレルギー児への対応は委託業者と連携をとりつつ、複数のチェックを行い、事故を未然に防いでいる。

評価項目	取り組み状況
<b>8. 保護者との連携・情報</b> 保護者と連携して、園児の情報を生かした保育を行っているか 園での事故・問題等発生時の保護者連絡、園情報の発信は適切か 保護者の園行事への積極的参加、園の教育・保育理解はできているか 保護者からの要望や意見に適切に対応できているか 守秘義務を厳守しているか	個人情報の取り扱いについては、法令順守の体制ができており適正に取り扱っている。 保護者からの要望や意見には真摯対応をしている。園内外で発生した事案について、ヒヤリハットとして個人情報を消去したうえで、職員間の共有を図っている。 保護者への園の情報は年間行事予定表・園だより・クラスだより・メール等で発信しているほか、定期的に懇談会や教育説明会を開催し伝えている。また、保護者は保育参加や教材づくりをとおして、園の教育・保育の理解促進ができています。
<b>9. 子育て支援</b> 子育て支援の取り組み、保護者の要望に応じた預かり保育の実施ができているか	地域や保護者の実情や要望を取り入れ、年間の計画を立て、定期的に子育て支援を実施しており、参加者は年々増加している。 また、預かり保育については、保護者の要望を考慮し、国の定めた時間外も延長して実施するなど、積極的な取り組みを行った。 今後は、子育てにおける相談機能の充実を行う。
<b>10. 幼保小連携・地域交流</b> 地域の小学校との教育交流、地域住民の方への園行事等の周知、参加交流を行っているか	姉妹園との交流計画を立て、定期的に実施している。また、地域小学校との交流の機会を積極的に設けて行っている。園だより等の園の情報も定期的に近隣の小学校や自治会にお渡ししている。 園行事にも地域交流の機会を取り入れ、地域住民との交流の機会を設けている。
<b>11. 運営管理</b> 園内での職員の役割が明確であり、情報の共有ができているか 保育園部分と幼稚園部分の連携が取れているか	組織としての役割分担が明確になっており、職員それぞれが全体の中での自分の役割を自覚して職務にあたる事ができている。職員間の情報共有及び意見交換等については、朝礼・終礼、職員会議に加え、グループウェアを活用して行っている。次年度の積極的な取り組みとしては、保育園部分と幼稚園部分の連携強化が必要。
<b>12. 特徴的な教育</b> モンテッソーリ教育理念の理解、統合保育下における個々の発達に応じた保育ができているか	異年齢同クラスの取り組みを行っている意味を理解し、個々に応じた援助、保育展開ができています。 モンテッソーリの教育理念を理解し、教具教材の直接目的、間接目的を理解したうえで保育にあたっている。 また、インクルーシブ保育の下、障害の名にとらわれず、その子の発達に応じた保育ができています。

#### 5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
1. 教育・保育目標の理解と周知	非常勤職員に向けて、共通理解の機会を持てる取り組みの実施
2. 行事	行事における異年齢保育下での実施方法の検討と一部導入
3. 特別支援教育	具体的な事例研究等教職員の研修の実施
4. 保健・安全指導	園内（特に保育室内）の細部にわたる安全チェック表の作成と点検方法の見直し
5. 子育て支援	子育てにおける相談機能の充実
6. 運営管理	保育園部分と幼稚園部分の連携システムの構築
7. 特徴的な教育	モンテッソーリ教育のお仕事指導レベルのステップアップ

平成 30 年 3 月 7 日